

IoT人材育成分科会での議論を踏まえた 具体的取り組み(案)

19-7-24

1、技術体系に基づく講習と検定（例：基礎、中級、上級）進捗

- ・テキストの発行と講習会の展開（評価良好、上級は7月26, 27日）
- ・検定試験の実施推進 合計受検者 4,042人（6月末現在）
2019年度末で8,000人と予測
- ・（上級概要 別紙参照）

2、講習会の実施（訓練含）等

- ・検定試験に合わせての基礎講座・基礎受験対策講座および
- ・中級講座・中級受験対策講座（IoT入門講座）を実施中
- ・18年度 23回実施(18/下は費用の絡みで5回のみ)
- ・19年度 新規に「AI入門講座」（別紙）を追加し40回程度の開催を計画
（含む企業単位の講習）

3、新規にIoT導入実践（案） 含む5G,LPWA有効活用研修 検討中

目的：IoTの技術内容を理解した者が、構築実践教も行うことで職場単位のリーダーとしてIoTシステム構築のイニシアティブが取れるようにする。

受講対象：IoT検定中級合格者または同等以上の知識を有する者

講習時間：14時間、（金）、（土）実施

養成人数計画：500人/3年間（19年度開始～21年度終了）

課題：費用（講習資料約800ページ、講師育成3名程度（上級資格者対象）、機材40セット

HP等、告知・促進・DB配信・・・・・・・・初期費用25～30百万、運用費用は有償化可能

- ・特に、募集費用、訓練場所（地方展開の可能性）、
- ・終了後のフォローアップ：ネットワークキングの構築(例SMC,早稲田大)によるノウハウ共有仕組と新技術習得機会をセット（更新研修会＝モバイルシステム技術検定で運用中）
- ：地方展開 集客、推進ラボが地方展開されている模様（重複回避、補完）
- ：業種(業務単位)の対応、11業種の中で市場規模等を勘案して製造業、流通業、建築を中心として特殊分野の医療などを今回対象としない